

小諸宿の町屋

伝統的な建物は、木組みの構造で、自然素材の美しさ、職人の技、先人の知恵と息が詰まっています。小諸宿の町屋の町並みは、小諸が誇る歴史資産です。

※「町屋」は商家、「町家」は住宅を表す使い方が多いですが、どちらでも使えます。本町では、「町屋」を使っています。

何百年も持つ木組みの家

木は、切られてから2~300年は強度が増し続けます。木材に切り込みを入れしつかりと組み立てられた伝統工法・木組みの家は、ずっと使い続けられます。他の工法の家は、耐用年数はずっと短いです。

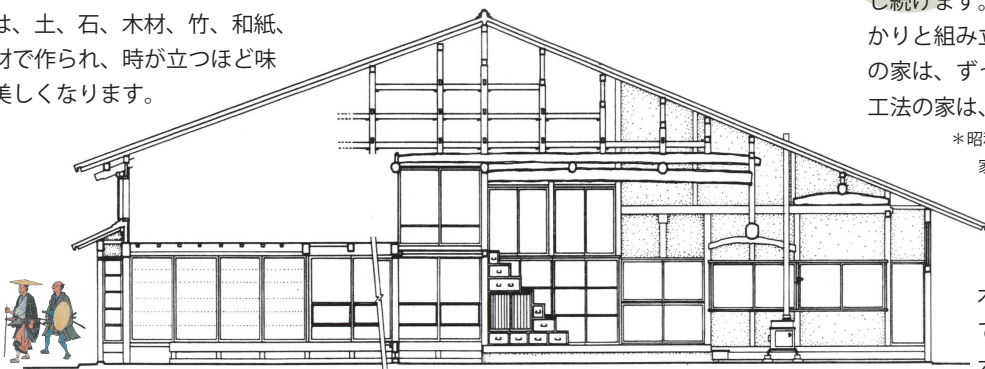
※昭和20年の法律改正以降、伝統工法での家づくりはできにくくなりました。

■伝統建築の利点

味わいが増す自然素材の家

伝統的な建物は、土、石、木材、竹、和紙、などの自然素材で作られ、時間が立つほど味わいが増し、美しくなります。

本町の町屋は、道路を広げた時に軒先が切られています。



夏、涼しい

屋根が大きく風が抜けるなど、夏を快適に過ごすことを大事にしています。構造を壁に頼らない木組みなので、建具を取り外して開放的に暮らせます。

空間の可変性が高い

建具の取り外しで、部屋の広さを変えられます。建て増しなども容易です。

人が寄りやすい

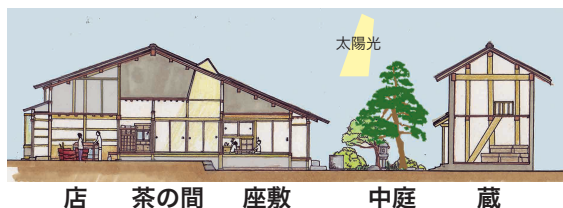
開放的で、縁側や土間などに人が寄りやすくなっています。

直して使える

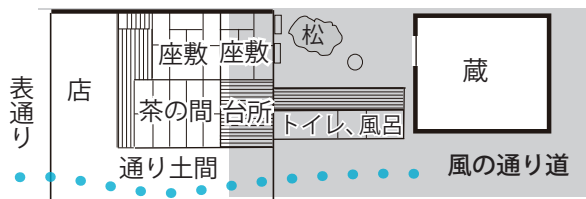
木組みなので、壁を抜くなどして間取りを変えたりしやすい。木や壁の傷んだところを取り替えれば、ずっと使えます。脱炭素社会に貢献します。

■賑わいづくりと暮らしやすさの両立

町屋の敷地断面（概念図）



町屋の敷地平面（概念図）



本町の短冊形の敷地割

一軒の間口は約10m



戦国時代の城下町の建造にはじまり、宿場町の家業や暮らしの中で工夫され大事に使い続けられてきた伝統的な町屋は、小諸が誇る歴史資産です。本町には、その町屋が連続し「歴史的町並み」として残っています。

本町の町並みは、賑わいを生むように、狭い短冊形の敷地がぎっしりと並んでいます。それぞれに主屋、中庭、蔵が順番に配置され、商売と暮らしを両立させ、奥の蔵では酒や味噌・醤油等を製造する店もありました。

主屋の間取りは、表側が店、次が店にすぐ出られる茶の間、奥に庭に面した座敷が並び、どの家にも蔵に抜ける通り土間があります。

昔の店の軒先は高さが揃っており、表の戸を開け放っていたらまるでショッピングモールのようでした。江戸の建物は2階が低く、明治以降は2階は高くなっていきますが、暗黙のルールで店の1階の軒は揃っています。

同じ向きの三角の屋根は、たがいの家の庭の日当たりも大切にしています。

このように、本町の町並みには、互いに協力して「商売しやすく」「暮らしやすい」環境を保ってきました。それが町並みの調和や美しさを生み出し、訪れる人を魅了します。

伝統的な木の家は、大事にすれば百年も二百年も使続けることができます。

この町並みを活かして新たな商業観光をおこし、次の世代がさらに豊かに暮らせるようなまちづくりをみんなで進めていきましょう。

